

2022年
10月20日
NO 42

全国OB会ニュース

日本貨物鉄道労働組合
全国OB会

発行人 藤原博之

2022年度

JR 総連 OB 連絡会拡大幹事会報告

10月13日(木)13時より、目黒さつきビル会議室において「JR 総連 OB 連絡会拡大幹事会」が開催されました。JR 貨物労組からは、新井副会長と伊藤事務長、本部担当として阿部副委員長の3名が参加してきました。

会議は、藤原副会長(JR 貨物労組)の開会のあいさつで始まり、奥山会長は「昨年の対面に続いてであり、このような時だからこそ皆で集まって意見交換する意義は大きいのではないかと。健康に留意し、憲法改悪反対、平和・人権・民主主義を守り抜き、年金・医療・介護を柱とする社会保障制度の安定的実現に向け、退職者連合と連携を深め、全力で取り組もう」とあいさつしました。最後に、ジェンダーの組織化の立場から、女性会員の把握と女性の参加があるのに、OB(オールド・ボーイ)という名称でいいのかとの退職者連合の問題提起であり、検討すべきことが報告されました。

つづいて、JR 総連の山口委員長より出された資料にもとづいて、取り巻く情勢を含めたJR 総連としての闘いの報告と活動への方向が示されました。冒頭、田城かおる参議院議員が一か月誕生したこと。その報酬は全額寄付されたこと。今回の参議院選挙は、比例区で自治労出身の鬼木まこと議員をみんなの力で当選させ、自治労との連帯の絆を深めたこと。ウクライナ・カンパのお礼と直接手渡してきたことが報告されました。また、連合の芳野会長の「国葬」への参加をはじめ、どの立場でものを言っているのかハッキリしない中で「このまま会長を続けられるのか」という声が出ていること。・来年の23春闘に向けて・防衛費のGDPの2%問題・ローカル線の切り捨てや自衛隊における鉄道輸送に関して、背景や問題意識が報告され、厳しい現実を前に認識



を新たにしたところです。

議事は植松事務長によって、(1)一年間の経過報告 (2)第49回衆議院選挙・第 26 回参議院選挙 (3)幹事会について、が資料にもとづいて提起されました。

各単組の報告では、共通した問題としては、高齢化と会員の減少であります。70 歳代後半から 80 歳代の役員構成から、65 歳代への代替わりが必要なこと。また、昭和採用が来年・再来年で定年を迎えれば、平成採用まで会員が減少することは必然的であります。そのようななかでも、JR 各社は厳しい経営状況を口実に、さまざまな経営施策を矢継ぎ早にかけてきており、安全が脅かされる事態も発生し、組合員・家族の不安が大きくなっていることも明らかになりました。JR 総連各単組 OB 会は、現役組合員の闘いを支え、ともに歩んでいくことが報告されました。

次に、記載のように新役員が発表され、事務長が植松健氏 (JR 東労組) から森将美氏 (JR 東労組) に交代されました。

最後に、奥山会長の団結ガンバローで拡大幹事会を終了しました。

| | 氏名 | 所属労組 |
|-----|-------|------------|
| 会長 | 奥山 光昭 | 東労組 OB 会 |
| 副会長 | 藤原 博之 | 貨物労組 OB 会 |
| 事務長 | 森 将美 | 東労組 OB 会 |
| 幹事 | 武川 隆二 | 北海道労組 OB 会 |
| 幹事 | 福島 一二 | 東海労 OB 会 |
| 幹事 | 末岡 譲 | 西労 OB 会 |

